

ウミガメあれこれ



屋久島は北太平洋最大の産卵地

ウミガメは世界中に7種います。その中の1種であるアカウミガメは温帯の海を好み、北太平洋では日本でのみ産卵します。しかも、その約50%が屋久島で行われ、北太平洋最大の産卵地となっています。



メキシコに行つて育つ

屋久島がアカウミガメの産卵地として適している理由は、すぐ北に黒潮が流れているからです。砂浜でふ化した子ガメは、黒潮にのって旅をします。北太平洋を東に流されて、アメリカやメキシコの沖までたどり着くカメもいます。メキシコのカリフォルニア半島の沖は餌が豊富で、若いアカウミガメが他の地域に比べ相対的にたくさんいることが分かっています。そこで成長すると、再び日本に向かって泳ぎだし、しばらく日本沿岸で成長したのち産卵するようになります。



ウミガメの減った理由

ウミガメの数は50年前の10分の1に減ったと言われています。なぜ、こんなに減ってしまったのでしょうか?原因として、

- ① 昔は卵を重要な食料としていた。
- ② 漁網などに絡まっての水死。
- ③ 産卵場所である砂浜の減少。

などが言われています。

しかし、明るい兆しも見えてきました。屋久島では2000年以降、産卵回数が増えてきているのです。屋久島ではウミガメの保護に努めており、その効果がでてきたのかもしれませんが。ウミガメの数の変化も、自然の変化も、ゆっくりと起こります。ウミガメのために静寂で美しい砂浜と豊かで安全な海を守らなければなりません。



中原広喜(永田小学校2年)

見学される方に

屋久島では5月から7月が産卵、7月から9月がふ化のシーズンです。砂浜ではウミガメへの心づかいをお願いします。



光はひかえめに。

親ガメだけでなく、子ガメも光に敏感です。海に帰るときに光があると、まっすぐ海に向かうことができません。



植物を踏みつけないで。

砂浜の植物は、砂浜の砂が飛んでいかないようにする役目があります。ウミガメもこの植物の存在で、産卵場所を決めることがあります。



浜で騒がないで。

ウミガメは夕方、産卵する砂浜を沖から確認すると言われています。



野村愛里(永田中学校2年)

- もっと永田のことを知りたい方は…

永田公民館：☎0997-45-2270

- もっとウミガメのことを知りたい方は…

屋久島うみがめ館 <http://www.umigame-kan.org/>

日本ウミガメ協議会 <http://www.umigame.org/>

- ラムサール条約湿地について知りたい方は…

環境省

屋久島自然保護官事務所

〒891-4311 鹿児島県熊毛郡屋久町安房前岳2739-343

TEL.0997-46-2992 FAX.0997-46-2977



ラムサール条約湿地 永田浜

ウミガメを守ろう!



正木航太(永田小学校5年)



羽生健吾(宮浦中学校1年)



岩本流奈(永田小学校1年)

ラムサール条約と永田

「ラムサール条約」は、国際的に重要な湿地と、そこに生息・生育する動植物の保全を進めることを目的とする国際条約です。

永田浜(四ツ瀬浜・いなか浜・前浜)は、アカウミガメの産卵地としてとても大切な場所となっていることから、ラムサール条約湿地となりました。

永田集落には、他にもたくさんの魅力があります。また、それらを守ってきた歴史と伝統が息づいています。

●ラムサール条約とは、

1971年にイランのラムサールで、国際会議が開かれ、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が取り決められました。この条約は、町の名前をとって「ラムサール条約」と呼ばれています。

湿地には泥炭地、湖沼、河川、海や入り江、干潟、マングローブ湿地や人工的なダムなどがあります。

●永田に伝わる民話

猿と亀(上屋久町郷土誌より抜粋)

むかし、むかし。猿が戯遊びに来て、瀬の上に立って沖を眺めておったちゆう。風がそよそよと吹いて、沖の瀬には白波がしぶきをあげてだけ散っていた。それを猿が見て、「風そよそよと吹けば、波しゃーんと立つー」と歌をよんだ。

すると瀬の下から「おもーしろーしー、あははは」という声がしてきた。

「これはふとどきなやつや」。猿が怒って瀬の下を探してみたら、岩のそばに亀がおった。「おまえはふとどきなやつや。こっちが歌をよむのに、そんな、おもーしろーしーなんかいうて笑うとはけしからんやつや」というと、猿は大きな石をかかえて、亀の背中にどしゃんと落としてやった。そしたら亀の背中がちりんばらんに割れてしまった。

おいおいと泣く亀を見て、猿もこんどはかわいそうになった。そこで猿は近くの森からかすらをとってきて、亀の背中をきびつて(くくつて)くれたち。それで亀の背中は今もあんなにちりんばらんに型が付いちょっと言(ゆ)てな。そしこのはなしじゃ。

(話者：日高サエ氏、永田、明治22年(1889)生。『屋久島の民話』)



◆このパンフレットに掲載されているエコツアーマップ以外の絵画は、平成17年度ウミガメ保護に関する絵画コンクールにおいて入賞した作品です。



竹之内千佳(一湊小学校6年)